

25. ^{111}In 標識モノクローナル抗体の腫瘍集積性に関する基礎的検討 ……………村中 明他…512
 26. ^{131}I -lipiodol による家兎 VX_2 移植肝癌の治療 ……………稲月 伸一他…512
 27. シンチカメラを使用した Dual Photon Absorptiometry 装置の開発 ……………友光 達志他…513
 28. 核医学データ処理におけるパーソナル・コンピュータおよび大型計算機の活用 ……村瀬 研也他…513
 29. 頭頸部扁平上皮癌の腫瘍マーカーとしての血中 SCC 抗原測定……………光森 通英他…513
 30. 肺扁平上皮癌における血清 SCC 抗原測定の臨床的意義
 ——特に経過観察における有用性について—— ……………美濃 直子他…514
 31. Osteocalcin RIA の基礎的および臨床的検討……………永井 清久他…514
 32. $1,25(\text{OH})_2\text{D}$ の radioassay の基礎的検討 ……………古川 高子他…514
 33. IgE キット“第一”S の基礎的検討……………清水 誠三他…514

一 般 演 題

1. 脳血流 SPECT イメージの基礎的検討

柳元 真一 福永 仁男 大塚 信昭
 小野志磨人 永井 清久 光森 通英
 村中 明 友光 達志 森田 陸司
 (川崎医大・核)
 西下 創一 (同・放)

脳血流 SPECT イメージの基礎的検討として、検出器回転型のシンチカメラに、MEHS または LEHR コリメータを装着し、脳への集積率を ^{123}I -IMP では 8%、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ 標識製剤では 3% を想定し、以下の結果を得た。

- 1) コリメータを MEHS から LEHR に変更することにより、SPECT 像の MTF 値は 0.2 cycle/cm において 44%、システム感度は 10% 向上した。
- 2) $^{99\text{m}}\text{Tc}$ 標識製剤の 5~8 mCi 投与時の画像は、 ^{123}I -IMP 3 mCi 投与時よりも良好な SPECT 像が得られた。
- 3) SPECT 像における前処理法 (Wiener F.) は、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ 標識製剤 30 mCi 投与においても必要性が認められた。また、10~30 mCi の範囲では、同程度の画像が得られた。

2. てんかんにおける ^{123}I -IMP シンチグラフィ

小野志磨人 福永 仁夫 大塚 信昭
 永井 清久 光森 通英 村中 明
 柳元 真一 友光 達志 森田 陸司
 (川崎医大・核)
 梶原 康正 西下 創一 (同・放)
 安田 雄 寺尾 章 (同・神内)
 曾根 照喜 (京大・放核)

^{123}I -IMP による脳血流シンチグラフィをてんかん患者 37 例 (症候性 14 例、真性 23 例) に施行した。脳血流イメージは回転型カメラを用いて行い、同日に検査した脳波、X 線 CT の所見との比較を行った。

結 果

- (1) 症候性てんかん患者 14 例中 13 例で ^{123}I -IMP の集積低下が観察された。
 - (2) 真性てんかんの非発作時では 23 例中 3 例で ^{123}I -IMP の集積増加が、13 例で集積低下がみられた。発作中の 2 例のうち 1 例は高度集積増加が、1 例では集積低下が認められた。
 - (3) X 線 CT で局所異常を認めない 23 例中 18 例で脳血流シンチで異常が指摘された。
 - (4) 検査時、脳波にて発作波を認めなかった 10 例中 6 例でも集積低下が示された。
- 以上のように、てんかん患者の病態解明、焦点決定の上で ^{123}I -IMP による脳血流シンチグラフィは有用であると思われた。